

2024年度

事業報告

自 2024年 4月 1日

至 2025年 3月31日

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団

Yamaha Motor Foundation for Sports (YMFS)

静岡県磐田市新貝2500番地

目次

【事業報告】

「事業の概況」	2
「事業別の状況」	
◆チャレンジ支援事業（公1）	
1. 助成(スポーツチャレンジ助成)	3
2. 表彰(スポーツチャレンジ賞)	5
3. 普及啓発のための情報発信	6
◆スポーツ体験促進事業（公2）	
1. 各種体験活動	
(1) ジュニアヨットスクール葉山(セーリング体験)	7
(2) セーリング競技会(セーリング競技体験)	8
(3) 自然体験絵画コンテスト(自然体験)	9
(4) 教材の提供(体験活動に必要な教材の提供)	10
(5) 体験型スポーツ教室/イベント	10
2. 調査研究	11
3. 普及啓発のための情報発信	12

【事務報告】

1. 理事会・評議員会・評議員選定委員会	13
2. 理事・監事・評議員	14
3. 主な事業協力者・関係者	15

【事業関連情報】

1. 第18・19期助成対象者	17
2. 第33回セーリング・チャレンジカップIN 浜名湖 参加団体及び上位入賞者	21
3. 第36回全国児童自然体験絵画コンテスト入賞者	23
4. スポーツ教材の提供先	25

「事業の概況」

2024年度は、2022年度に勃発したロシアのウクライナへの武力侵攻、中東におけるイスラエルとハマスの武力交戦が未だ終焉を迎えることが出来ず、世界情勢は大きな課題を抱える痛ましく残念な年でもあり、一日も早い穏やかな時が、全世界に訪れる事を願うばかりです。

一方、11月に行われたアメリカ大統領選では共和党トランプ政権が復活し、世界中に大きな動きが起こりそうな予感です。

スポーツ界においては、パリオリンピック・パラリンピックにおける日本代表選手の様々な競技における活躍や、MLB ロサンジェルス・ドジャース大谷翔平選手の歴史的な記録尽くめの大活躍が、日本中に活気に満ちたエネルギーを与えた1年となりました。

そのような状況の中、当財団の各事業活動においては、すべての活動を計画通りに遂行して参りました。

チャレンジ支援事業においては、スポーツチャレンジ助成に新たな審査委員1名を加えた充実した新体制の下、18期生の活動を積極的に支援するとともに、チャレンジ精神旺盛な19期生を採択することが出来ました。

18期生成果報告会及び19期生助成金贈呈式の間であるスポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングは、本年3月に日本青年館ホテルにおいて、以前同様に臨場感溢れる有意義なイベントとなったことは言うまでもありません。

また、スポーツチャレンジ賞では、第16回受賞者“遠藤 謙氏”の表彰式を5月に執り行いました。受賞記念事業も受賞者遠藤氏と取組内容、時期を相談しながら、近々に実施する計画となっています。

一方、第17回スポーツチャレンジ賞は、11名の公募等による候補者において追調査及び2回の選考会を実施しましたが、残念ながらYMFSスポーツチャレンジ賞に相応しい受賞者選考には至らず、2024年度は“該当者なし”との結果となりました。2025年度以降も、YMFSスポーツチャレンジ賞に合致した受賞者採択を目指します。

スポーツ体験促進事業においては、年度末3月に第33回セーリング・チャレンジカップを浜名湖において開催し、全国のジュニアセーラーが、浜名湖を舞台に切磋琢磨しました。

自然体験を絵にする自然体験絵画コンテストでは、夏休みの宿題として多くの幼稚園・小学校からの応募があり、昨年同様子どもたちの絵にしたいくなるような楽しい自然体験が沢山あったことを確認することが出来ました。

また、地域を巻き込む活動、共感の輪を広げる方針の下、「ユニバーサル・スポーツ(ボッチャ)体験会」も計画通り開催。スポーツ教材の提供活動は、昨年同様“ボッチャボールセット”及び“タグラグビーセット”を120団体へ提供。配布先の小中学校等で新たなスポーツ体験をする子どもたちが増えたことと認識しております。

3年目を迎えました中期事業方針“Value5”は、「チャレンジ支援」及び「スポーツ体験促進」という2つの各事業活動において、コロナ禍で得たりモートと対面を使い分けるハイブリッドな活動手法を、日頃より様々な各運営活動において駆使し、時代に合致した効率的でより質の高い運営を進めております。

これらの活動により、“業務目的に直線的なより質の高い業務推進”が実現した年度と捉えております。

2025年度の具体的な活動においては、引き続き“Value5”を愚直に推進する年度と捉えており、今年度同様子どもたち等参加者、関係者の方々の安全を最優先し、適宜柔軟な見直し、調整を随時加えながら展開をしていく所存です。

関係の皆様のご支援に改めて感謝を申し上げますとともに、引き続きのご支援をお願い申し上げます。

「事業別の状況」

◆チャレンジ支援事業（公1）

本事業は、将来、スポーツ振興及びスポーツ文化の発展を担う人材にとっての重要な成長機会と言える「挑戦（チャレンジ）」に焦点をあて、助成対象者（チャレンジャー）を支援する助成事業とチャレンジを称賛し奨励する表彰事業とのシナジーを高めることにより事業の質を向上し、チャレンジすることを総合的に支援する事業として展開しております。各活動の意義・活動内容は、分かりやすくホームページや其他媒体を通じて情報公開します。

1. 助成（スポーツチャレンジ助成）

スポーツ振興及びスポーツ文化の発展において、将来、世界を舞台に活躍できる人材の育成を目的に、スポーツに関する技術・体力の向上、その他実践的活動、及び学術的な研究に対する助成を行います。

〈2024年度（第18期）の助成実績〉

分野	2024年度（第18期）	※参考 2023年度（第17期）
体験助成	15件（1,440万円）	15件（1,499万円）
研究助成	15件（1,434万円）	16件（1,514万円）
合計	30件（2,874万円）	31件（3,013万円）

〈2025年度（第19期）助成対象者の募集概要〉

募集期間	2024年 8月19日（月）～9月30日（月）
告知方法	・ニュースリリース及び、関係大学、競技団体等への案内 ・当財団ホームページにて応募要項を掲載

助成分野・区分		応募資格	助成金額/件	助成件数
体験助成	ジュニア	ジュニア世代の国際大会での実績を有する、2012年 4月 1日以前生まれ（応募時、中学1年生以上）の個人および、これによって構成されるチーム	上限50万円	ジュニア・ベーシック 合わせて 10件程度
	ベーシック	世界選手権等国際レベルを目指す、2010年 4月 1日以前生まれ（応募時、中学3年生以上）の個人および、これによって構成されるチーム	上限100万円	
	アドバンスド	世界選手権等国際レベルでの実績を有する、2010年 4月 1日以前生まれ（応募時、中学3年生以上）の個人および、これによって構成されるチーム	上限150万円	若干名
研究助成	奨励	助成期間中、大学院博士課程（博士後期課程）に在籍中または修了した方（学位未修得者を含む）のうち、1994年 4月 2日以降生まれの方。	上限60万円	5件程度
	基本	助成期間中、大学や研究機関等で研究職として活動に従事する、1984年 4月 2日以降生まれの方 ※教授職又は教授職相当の職位の方は除きます	上限120万円	10件程度

※助成期間は、2025年 4月から1年間。

〈第19期審査委員会開催〉

審査委員会	審査分野	日程	会場	審査委員
第1回 (書類審査)	体験・研究助成	2024年12月 7日(土)	磐田事務所 (リモート開催)	13名
第2回 (面接審査)	研究助成	2025年 1月25日(土)	日本青年館ホテル	7名
	体験助成	2025年 1月26日(日)		6名

〈第19期応募、採択状況〉

分野	2025年度(第19期)			※参考 2024年度(第18期)		
	区分	応募件数	採択件数	区分	応募件数	採択件数
体験助成	ジュニア	7名	2名	ジュニア	13名	3名
	ベーシック	36名	11名	ベーシック	56名	10名
	アドバンスド	10名	2名	アドバンスド	21名	2名
	(計)	53名	15名	(計)	90名	15名
研究助成	奨励	13名	6名	奨励	27名	6名
	基本	15名	9名	基本	31名	9名
	(計)	28名	15名	(計)	58名	15名
	(合計)	81名	30名	(合計)	148名	30名

〈第19期助成金額(採択時)〉

分野	2025年度(第19期)	※参考 2024年度(第18期)
体験助成	15件(1,480万円)	15件(1,440万円)
研究助成	15件(1,331万円)	15件(1,434万円)
助成額合計	30件(2,811万円)	30件(2,874万円)

〈第19期助成金贈呈式〉

開催日	会場	出席対象者
2025年 3月15日(土) 9:30～ 10:00	日本青年館ホテル	第19期助成対象者、第18期生、審査委員他

※第18回スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングの中で開催

《助成事業の一環としてのフォローアップ活動》

チャレンジの成果と同様に、そこに至るプロセスを大切にしている当財団の助成制度では、助成対象者に対して、PDCA(Plan Do Check Action)を基軸に、活動の振り返りや、異分野交流を通じた相互刺激、気づきの機会を提供する等フォローアップ活動のプログラムを実施しています。

(1) 第18期四半期活動報告書の提出

助成開始時に提出されたチャレンジ年間計画に対し、四半期ごとの進捗状況を、スポーツチャレンジ助成事業管理システムを介して報告させ、審査委員から一人一人にアドバイスをを行いました。

(2) 第18期中間報告会の開催

中間報告会では、チャレンジャーから上半期の活動経過を報告し、チャレンジャー相互や審査委員も含めた活発な質疑応答がなされました。

〈2024年度(第18期)中間報告会〉

日程		会場	チャレンジャー	審査委員
第1回	10月 5日(土)	日本青年館ホテル	8名	6名
第2回	10月 6日(日)		8名	9名
第3回	10月12日(土)	御茶ノ水ソラシティ	7名	8名
第4回	10月13日(日)		7名	9名

(3) 成果報告会および修了式について

スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティングは、年度末の時期に現・新チャレンジャーと審査委員が一同に会して1年間のチャレンジ成果や課題を確認するとともに、異分野の交流を通じて多様な価値観に触れ、一人一人がスポーツについて「語り」「学び」「考える」機会を提供することを目的として開催している行事です。

〈第18回スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティング〉

日程	会場	概要	出席者
2025年 3月15日(土) 16日(日)	日本青年館ホテル	・第18期生成果報告会 ・特別講演(小島 智子氏) ・異分野交流会他	・第18期生 27名 ・第19期生 25名 ・審査委員他 11名

(4) スポーツチャレンジ助成表彰

現在、または過去に本助成制度を受け、成果報告会等で報告されたチャレンジャーの中から、優れた成果を上げ、スポーツ振興に貢献されたチャレンジに対し、審査委員会での審議を経て、「特別賞」及び「優秀賞」を贈呈しています。

2024年度は、「特別賞」、「優秀賞」共に、該当者なしとなりました。

2. 表彰(スポーツチャレンジ賞)

スポーツの普及・振興に功績をあげ、将来、更なる貢献が期待される個人・団体を表彰するとともに、チャレンジスピリットあふれる受賞者の足跡やその実像を通じて、挑戦(チャレンジ)することの尊さや大切さを社会に伝播することを目的としています。表彰対象者のイメージは、チャレンジ支援(事業)の趣旨を踏まえ、未来志向を鮮明にした表彰制度として、「縁の下での力持ち」的な個人・団体と捉え、報道機関、スポーツ競技団体、大学等からの候補者情報、又は推薦等を募り、2回の選考委員会審議を経て決定します。

〈本賞の概要〉

スポーツ チャレンジ賞	日本のスポーツを支える「縁の下での力持ち」の功績を称えるとともに、受賞者の更なるチャレンジと活躍を期待・奨励する表彰制度
対象者	スポーツ振興や社会の活性化につながる大きな成果に対し、献身的な活動で縁の下から支えた人物・団体
後援	(公財)日本スポーツ協会、(公財)日本オリンピック委員会 (公財)日本パラスポーツ協会 日本パラリンピック委員会

表彰式	2024年 5月28日(火) 御茶ノ水ソラシティ テラスルーム
スポーツ チャレンジ賞	遠藤 謙氏 ・義足エンジニア、株式会社Xiborg(サイボーグ)代表、ソニーコンピュータサイエンス研究所 リサーチャー ・Blade for All「だれもが走れる社会」を実現するために
情報公開	・表彰式の模様は当財団ホームページにて公開・掲載 ・受賞者の功績や、知られざる足跡等詳細情報を、当財団ホームページ、スペシャルウェブ コンテンツ(特集記事)「BACK STORIES(バック・ストーリーズ)」の中で紹介

〈2024年度(第17回) スポーツチャレンジ賞受賞者の選考〉

候補者募集	2024年 7月 1日(月)～ 9月30日(月)
選考委員会	第1回 2024年12月 7日(土) 磐田事務所(リモート開催) 第2回 2025年 1月25日(土) 日本青年館ホテル 26日(日) 日本青年館ホテル
スポーツ チャレンジ賞	該当者なし ※該当者なしの旨を、当財団HPにて公表(2025年3月24日)

3. 普及啓発のための情報発信

スポーツ振興やスポーツ文化向上による社会の活性化に寄与することを目的に、事業の活動に関する情報を、ホームページ等を通じて広く社会に対して発信しています。

また、刊行物やリリース発行での広報活動の充実にも努めています。

情報発信手段	概要
ホームページ	主な掲載内容 ・各事業活動の告知(案内、募集、結果報告等) ・第18期スポーツチャレンジ助成対象者の実像を紹介 ・第16回スポーツチャレンジ賞受賞者の人物像を紹介 (BACK STORIES)
ニュースリリース	・スポーツチャレンジ助成 助成対象者募集、対象者決定等 計3件
刊行物	・YMFS通信 毎月配信 (配信先 約900か所) ・2023年度年間事業報告書 Yearly Digest 900部

◆スポーツ体験促進事業（公2）

社会や家庭生活における環境の変化等により、子どもたちの体力・運動能力の低下や、自然体験の機会が減少していると言われる中で、次代の人材育成の基礎となる、心身ともに健全な子どもたちの育成を目指し、スポーツや自然がより身近なものとなるさまざまな運動機会や自然体験機会の創出を目指しています。

本事業では、「子どもたちのスポーツ現場のより近くに」を大切な視点に置いて、私たちの持つ事業リソースを活かし得る分野を中心に、各種体験機会を提供しています。

1. 各種体験活動

(1) ジュニアヨットスクール葉山（セーリング体験）

心身ともに健全で逞しい子どもたちの育成を目的に、小学生から高校生を対象として、通年型（4月～翌年3月）のヨットスクールを、神奈川県葉山町葉山マリーナを拠点に運営しています。

世代や個々のセーリングの技術レベルに合わせた独自のクラス分けと、これに沿ったカリキュラム等により、原則、月2回の通常講習を行なっています。

セーリング指導、水辺活動・安全対策等に加えて、協調性やコミュニケーション能力等を養うことを目的に、夏合宿を実施しています。生憎2024年度は施設や児童の都合等で開催には至りませんでした。2025年度は開催すべく準備を進めております。

また葉山周辺で開催される競技大会にも参加する等、より総合的な視点でのプログラムを実施しています。2024年度は、9名のスクール生を対象に活動しました。

〈指導方針〉

- ① 年度初めに1年間の目標を設定し、PDCAに基づく指導
- ② セーリングに関する適切な知識、経験、技能を備えた指導者による適切な指導
- ③ 逞しい心や競う力を養う目的から、上級者を中心とした葉山周辺及び年度末のレガッタへの参加
- ④ セーリング技術の向上と人材の育成を目的とした浜名湖での夏季合宿の実施
- ⑤ 「自然・水辺体験学習」を取り入れた総合的なプログラムを通じて、海、水辺、海事に関する教育を実施
- ⑥ スクールの指導理念や活動状況を共有し、理解協力を促進する目的で保護者会を年1回開催

〈スクール講習クラス〉

① ベーシッククラス（入会初年度）	毎月2回（年間24回）
② マスタークラス	↑
③ エキスパートクラス	↑
④ クラブ（高校生）	↑

〈2024年度スクール活動〉

スクール活動においては、指導者、保護者、スクール生の協力を得ながら、スクールの全活動を実施。

〈通常講習以外の主な活動〉

実施内容			日程	場所
〈2024年〉				
1	ミキハウスカップ東京2024	3名参加	9月8日	葉山新港
2	水辺の安全講習会※LSA葉山協力	10名参加	6月30日	葉山新港 森戸海岸
3	2024クリスマス会	35名参加	12月22日	葉山マリーナ

〈2025年〉			
4	安全祈願(生徒4名/指導者8名)	12名参加	1月12日 森戸神社
5	セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖	5名参加	3月28日～30日 三ヶ日青年の家

(2) セーリング競技会(セーリング競技体験)

〈セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖〉

本事業は、心身ともに健全な子どもたちの育成を目的に、全国のジュニア・ユースセイラーが一堂に会し、日頃の練習成果や、次年度の目標確認の場として、また、選手・指導者同士の交流や技術向上に資することを目的に、年度末に開催しました。

〈第33回 YMFSセーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖の概要〉

開催日時	2025年 3月28日(金)～30日(日)(3日間)
開催場所	静岡県立三ヶ日青年の家
主催	(公財)ヤマハ発動機スポーツ振興財団
公認団体	(公財)日本セーリング連盟(承認番号2024-62)
運営協力	(特非)静岡県セーリング連盟
助成	(独法)日本スポーツ振興センター「スポーツ振興くじ助成金」 JSC 助成金交付確定金額 4,155,000 円 当該助成金は、医師、審判員・スタッフ等への謝金、大会役員等への宿泊費・交通費、運営艇等の借用料・運送料等に使用しました。  第33回「セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖」は、スポーツ振興くじ助成金を受けて実施しています。
協賛	ヤマハ(株)、(株)ワイズギア、(株)ノースセールジャパン、パフォーマンスセイルクラフトジャパン(株)
後援	スポーツ庁、(公財)日本スポーツ協会、静岡県、静岡県教育委員会、(公財)静岡県スポーツ協会、浜松市、浜松市教育委員会、(公財)浜松市スポーツ協会、中日新聞東海本社、静岡新聞社・静岡放送、静岡朝日テレビ、NHK静岡放送局、静岡第一テレビ、テレビ静岡、K-MIX、FM Haro!、(一社)日本オペティミストディンギー協会、(一社)日本レーザークラス協会
協力	静岡県立三ヶ日青年の家
競技種目	・ILCA4(4.7級)、ILCA6(ラジアル級)、OP級(初級・上級) ※ILCA4及びILCA6は、2024年-2025年JLCAクラス別日本ランキング対象大会
実施概要	参加団体数・・・14団体 参加人数・・・52名 参加艇数・・・52艇 ・ILC4(4.7級)16艇、ILC6(ラジアル級)11艇、OP初級15艇、上級10艇

(3) 自然体験絵画コンテスト(自然体験)

本事業は、子どもたちが自然と触れ合い、自然の中で活動するきっかけを提供することを目的に、幼児、小学生を対象に「自然体験(活動)」をテーマにした絵を描くことによって、自然体験活動への興味・関心を高め、また表現力や感性を育むことを願い開催しています。このような趣旨から体験事業に位置付けて運営しています。

〈第36回全国児童自然体験絵画コンテストの概要〉

募集期間	2024年 6月24日(月)～ 9月13日(金)
対象	幼児、小学生
募集方法	当財団ホームページおよび募集リーフレット等にて告知
特別協賛	ヤマハ発動機(株)
協賛	マルマン(株)、(株)ワイズギア
後援	文部科学省、国土交通省、環境省、農林水産省、(一社)日本マリン事業協会、(公社)日本ユネスコ協会連盟、(一社)日本マリーナ・ビーチ協会、(特非)ジャパングームフィッシュ協会、(独法)国立青少年教育振興機構、(一財)日本海洋レジャー安全・振興協会
審査日程	予選会:10月8日(火)、9日(水) 最終審査会 :10月22日(火)
受賞者発表	11月 5日(火)
表彰	入賞作品 24点 最優秀賞 : 文部科学大臣賞、国土交通大臣賞、環境大臣賞、農林水産大臣賞 特別賞 : 審査員長賞、日本マリン事業協会会長賞、日本ユネスコ協会連盟賞、日本マリーナ・ビーチ協会会長賞、ジャパングームフィッシュ協会会長賞、国立青少年教育振興機構理事長賞、日本海洋レジャー安全・振興協会会長賞、ヤマハ発動機賞、YMFS特別賞(3点) 優秀賞 : 金・銀・銅賞(幼児、小学校低学年・高学年各部門) 入選作品294点 (秀作126点、佳作168点)
応募状況	作品数:7,132点 (前年度8,718点) 団体数:457団体 (前年度577団体)

〈審査会〉

審査会	日程	会場	内容	審査員
予選会	10月 8日(火) 9日(水)	ヤマハ発動機 コミュニケーションプラザ	専門家(画家)による審査を行い、 入選作品決定	2名
最終審査会	10月22日(火)	御茶ノ水ソラシティ	専門家、後援省庁・団体代表者 による審査で入賞作品決定	15名

〈各大臣賞表彰式〉

※コンテスト入賞者の詳細は別紙掲載

賞名	日程	会場	受賞者/贈呈者
文部科学大臣賞	12月12日(木)	東京都北区	受賞者:酒巻 玲那さん(年中) 贈呈者:河邊事務局長(常務理事)
国土交通大臣賞	12月 3日(火)	長崎県長崎市	受賞者:熊崎 李嵐さん(年長) 贈呈者:国土交通省九州地方整備局 長崎港湾・空港事務所長 松延 嘉國様

環境大臣賞	12月12日(木)	東京都渋谷区	受賞者:青松 楽さん(年長) 贈呈者:河邊事務局長(常務理事)
農林水産大臣賞	12月19日(木)	福岡県篠栗町	受賞者:佐々木 優成さん(5年生) 贈呈者:河邊事務局長(常務理事)

〈入賞作品紹介〉

情報公開	当財団ホームページにて掲載
作品展示	・国立オリンピック記念青少年総合センターで展示公開 2025年 1月16日(木)～ 2月13日(木) ・「ジャパンインターナショナルボートショー2025」会場での展示公開 2025年 3月20日(木)～ 3月23日(日)パシフィコ横浜会場

(4) 教材の提供 (体験活動に必要な教材の提供)

本事業は、スポーツ教材の活用を通じて、子どもたちが楽しく体を動かすきっかけとなり、スポーツ好きな子どもの増加、体力・運動能力の向上、心身の健全な育成の一助となることを目的に、全国の幼稚園、小学校、ジュニアスポーツクラブ、総合型地域スポーツクラブ等を対象に実施しています。教材提供先には、活用報告書の提出を求め、模範的な活用事例は、当財団ホームページ等に掲載して社会啓発に努めています。

〈2024年度「第18回スポーツ教材の提供」の概要〉

募集期間	2024年 3月 5日(火)～ 4月23日(火)
活用対象	幼児から中学生 (タグラグビーセットは小学生以下)
提供先団体	教材を継続的に活用してスポーツ機会を提供できる団体(保育園、幼稚園、認定こども園、小学校、中学校、特別支援学校、児童養護施設、児童クラブ、スポーツ少年団・クラブ・スクール等、スポーツに取り組む団体)
教材内容	① ボッチャボールセット ② タグラグビーセット
募集方法	当財団ホームページおよび教育委員会等を通じて告知
選考方法	書類審査の上、第三者による抽選により決定
結果通知	当財団ホームページに抽選結果掲載後、提供先団体へメールにて通知

〈抽選会〉

申請数	339団体(前年度582団体)
抽選会	5月 8日(水) 丸の内マイプラザ15F ヤマハ発動機㈱ 東京事務所内 (公財)日本スポーツ協会 岩田 史昭 常務理事による抽選
抽選結果	120団体(前年度120団体) ※ボッチャボールセットおよびタグラグビーセット各60団体

(5) 体験型スポーツ教室/イベント

近年の社会や家庭等、生活環境の変化を背景に、子どもたちが自然の中や水辺での活動する機会や、運動機会が減少していると言われている中で、身近にこれらを体験する機会を提供することを通じて、心身ともに健全で逞しい子どもたちの育成を支援すべく、当財団がこれまでの事業で培ってきた知見やネットワーク等を活用し、当財団所在地周辺の地域を対象に体験機会を提供しています。

・「ユニバーサル・スポーツ(ボッチャ)体験会」 チャレンジ！ユニ★スポ

ユニバーサル・スポーツ「ボッチャ」は、障害者スポーツとして生まれた競技ですが、幅広い年齢層や運動能力、障害の有無にかかわらず、参加者誰もが楽しめ交流できるスポーツです。

当財団では、子どもたちが体を動かすきっかけとなる、スポーツを好きになってもらう体験機会として、(公財)静岡県障害者スポーツ協会の協力を得て、静岡県下小中学校 10 校で、体験授業「チャレンジ！ユニ★スポ」を開催し、児童、教員 744 名が楽しく体験しました。

〈ユニバーサル・スポーツ(ボッチャ)体験会開催実績〉

回	日程	学校名	参加者数		
			児童生徒	教員	合計
1	10月 3日(木)	静岡市立清水岡小学校	75名	3名	78名
2	10月17日(木)	御前崎市立浜岡東小学校	49名	6名	55名
3	11月 8日(金)	焼津市立大井川南小学校	52名	4名	56名
4	11月13日(水)	河津町立河津小学校	41名	7名	48名
5	11月19日(火)	浜松市立新原小学校	63名	4名	67名
6	11月22日(金)	浜松市立引佐北部中学校	33名	9名	42名
7	11月25日(月)	浜松市立北浜小学校	104名	4名	108名
8	11月29日(金)	浜松市立和田東小学校	49名	3名	52名
9	12月 4日(水)	函南町立函南中学校	143名	8名	151名
10	12月13日(金)	磐田市立青城小学校	84名	3名	87名
合 計			693名	51名	744名

2. 調査研究

スポーツ振興やスポーツ文化向上にかかわる社会的な課題解決に寄与する為、当財団の特徴を活かし得る分野において調査研究を行い、その成果の社会活用を促進する活動を行っています。

(1)障害者スポーツ調査研究プロジェクト

13年目となる障害者スポーツ調査研究分野では、①障害者スポーツ選手のキャリア調査、②テレビメディアによる障害者スポーツ情報発信環境調査、③パラリンピアンに対する社会的認知度調査を実施し、それらの結果を調査報告書として発行しました。

また、本年2月に上記②③調査を基に記者懇談会を開催し、結果報告を行いました。

・報告書の発行

2025年3月に報告書を発行、Webサイトに掲載

・報告書タイトル

「障害者スポーツを取巻く社会的環境に関する調査研究」

～障害者スポーツ選手のキャリア、TV 放送、選手認知度に着目して～

・報告書の概要

【第1章】障害者スポーツ選手のキャリア調査

障害者スポーツ選手のスポーツを始めるに至った経緯や活動状況について、2024年度実施の24名の報告を掲載。今回は聴覚障害者の選手も調査。

【第2章】テレビメディアによる障害者スポーツ情報発信環境調査

パリ 2024 パラリンピック競技大会の開催中と前後 1 か月間のテレビ報道量を調査し、過去 5 大会からの変遷、局別、カテゴリー別、番組内コーナー別の調査結果を報告。

【第3章】パラリンピアンに対する社会的認知度調査

パリ 2024 パラリンピック競技大会開催後のパラリンピアンに対する社会的認知度、大会の視聴状況、観戦後の感想、デフリンピックとアジアパラ競技大会の認知度、日常生活におけるスポーツ環境についての調査結果を報告。

(2) 記者懇談会の開催

2024年度に実施した「テレビメディアによる障害者スポーツ情報発信環境調査」及び「パラリンピアンに対する社会認知度調査」の結果を踏まえ、2008年北京大会から経年調査してきた結果と比較した数値報告と合わせて、4大会連続でパラリンピックに出場している選手より、これまでの大会を通して感じた変化などについて報告しました。自国開催の東京2020パラリンピックを経て、昨年のパリ2024パラリンピックを終えた中で、パラスポーツの環境変化を共有し、今後のパラスポーツの認知度向上と振興へ向けて、多様化する情報発信の中、どう取り組むべきかを考えるきっかけとしました。

- ・テーマ : 東京2020パラリンピック後の障害者スポーツ環境の変化
「パリ2024パラリンピックのTV放送量とパラスポーツの社会的認知度からみえること」
- ・開催日時 : 2025年 2月15日(土) 13:30～15:30
- ・開催会場 : 同志社大学東京サテライト・キャンパス セミナー室
- ・参加者数 : 報道関係者:13名
- ・登壇者 : 4名
 - ・小淵 和也氏 (公財)笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所 政策ディレクター
 - ・藤田 紀昭氏 日本福祉大学大学院スポーツ科学研究科 教授
 - ・半谷 静香氏 柔道女子【視覚障害】パラリンピック ロンドン大会7位、リオ大会5位
東京大会5位、パリ大会銀メダル
 - ・若山 英史氏 車いすラグビーパラリンピック ロンドン大会4位、リオ大会銅メダル、
東京大会銅メダル、パリ大会金メダル

3. 普及啓発のための情報発信

スポーツ振興やスポーツ文化向上による社会の活性化に寄与することを目的に、事業活動に関する情報を、ホームページ等を通じて広く社会に対して発信しています。

また、刊行物やリリース発行等での広報活動の充実にも努めています。

情報発信手段	概要
ホームページ	主な掲載内容 ・各事業活動の告知(案内、募集、結果報告等) ・ジュニアヨットスクール葉山の活動紹介 ・スポーツ教材の提供の模範的な活用事例の紹介 ・第36回全国児童自然体験絵画コンテストの実施報告 ・調査研究活動に関する報告書の情報等
ニュースリリース	・スポーツ教材の提供募集、対象者決定等 計8件
刊行物	・YMFS通信 毎月配信 (配信先 約900か所) ・2023年度年間事業報告書 Yearly Digest 900部 ・2024年度障害者スポーツを取巻く社会的環境に関する調査研究 500部

【事務報告】

1. 評議員会・理事会

〈評議員会〉

	開催日時・会場	議事
定時	2024年 6月14日(金) 明治安田生命ビル4F会議室	〈決議事項〉 第1号議案 2023年度計算書類等承認の件(承認可決) 第2号議案 理事選任の件(承認可決) 第3号議案 代表理事、業務執行理事(常務理事)選定の件 (承認可決) 〈報告事項〉 ・2023年度事業報告、2024年度事業計画報告
臨時	2025年2月28日(金)	監事1名選任議案の件(承認可決：書面決議)

〈理事会〉

回	開催日時・会場	議事
1	2024年 5月24日(金) 明治安田生命ビル4F会議室	〈決議事項〉 第1号議案 2023年度事業報告承認の件(承認可決) 第2号議案 2023年度計算書類等承認の件(承認可決) 第3号議案 定時評議員会招集の件(承認可決) 第4号議案 審査委員選任の件(承認可決) 第5号議案 助成対象者への表彰規程改正の件(承認可決) 〈報告事項〉 ・代表理事・業務執行理事の職務執行状況の報告
2	2024年10月25日(金) 明治安田生命ビル4F会議室	〈報告事項〉 ・2024年度上半期事業概況及び下半期事業活動報告 ・2024年度中間決算及び収支見通し報告 ・代表理事・業務執行理事の職務執行状況の報告
臨時	2025年1月31日(金)	監事1名選任議案の提案の件(承認可決：書面決議)
3	2025年 2月27日(木) 明治安田生命ビル4F会議室	〈決議事項〉 第1号議案 2025年度事業計画承認の件(承認可決) 第2号議案 2025年度収支予算承認の件(承認可決) 第3号議案 2025年度資金調達及び設備投資の見込み承認の件 (承認可決) 〈報告事項〉 ・2024年度事業概況報告 ・2024年度収支見通報告 ・代表理事・業務執行理事の職務執行状況の報告

2. 評議員・理事・監事

〈評議員（7名）〉

2025年 3月31日時点

常・非常勤	氏名	現職
非常勤	相浦 勇二	ヤマハ発動機(株)顧問
〃	岩田 史昭	(公財)日本スポーツ協会 常務理事兼事務局長
〃	塩谷 立	元衆議院議員
〃	武井 一浩	弁護士
〃	晝馬 明	浜松ホトニクス(株)特別顧問
〃	藤原 正樹	(公財)日本パラスポーツ協会 常務理事
〃	柳 弘之	ヤマハ発動機(株)顧問

〈理事（9名）〉

2025年 3月31日時点

常・非常勤	氏名	現職
非常勤	渡部 克明	ヤマハ発動機(株)取締役会長
常勤	河邊 幸司	(公財)ヤマハ発動機スポーツ振興財団 常務理事兼事務局長
非常勤	伊坂 忠夫	学校法人立命館 副総長、立命館大学 副学長 立命館大学 スポーツ健康科学部 教授
〃	大井 義洋	(株)電通 スポーツビジネスソリューション局 シニアデレクター
〃	千足 耕一	東京海洋大学 学術研究院 教授
〃	能瀬 さやか	ハイパフォーマンススポーツセンター、国立スポーツ科学センター スポーツ医学研究部門スポーツクリニック 婦人科
〃	橋本 満	ヤマハ発動機(株)執行役員 人事総務本部長
〃	藤田 紀昭	日本福祉大学大学院 スポーツ科学研究科 教授
〃	増田 和実	金沢大学 人間社会研究域人間科学系 教授

〈監事（2名）〉

2025年 3月31日時点

常・非常勤	氏名	現職
非常勤	市村 清	市村清公認会計士事務所・公認会計士
〃	見辺 了祐	ヤマハ発動機(株)統合監査部長

3. 主な事業協力者・関係者

当財団の各事業の運営にあたっては、協賛、後援、賛同等さまざまな立場でご支援いただく多くの皆様に支えられております。以下に掲載させて戴く皆様は、具体的役割として登録させて戴いた一部の皆様になります。

〈スポーツチャレンジ助成審査委員（17名）〉 ※スポーツチャレンジ賞選考委員兼任

2025年 3月31日時点

役職	氏名	現職	専門分野
名誉 審査委員長	浅見 俊雄	東京大学 名誉教授、日本体育大学 名誉教授	運動生理学
審査委員長	伊坂 忠夫	学校法人立命館 副総長、立命館大学 副学長 立命館大学 スポーツ健康科学部 教授	バイオメカニクス
審査委員	内田 若希	九州大学大学院 人間環境学研究院 准教授	スポーツ社会学
〃	片山 敬章	名古屋大学 総合保健体育科学センター 教授	運動生理学
〃	草加 浩平	東京大学大学院 工学系研究科機械工学専攻 非常勤講師	工学系研究科
〃	小島 智子	株式会社チアホリックス 代表取締役	元NFLチアリーダー
〃	篠原 菊紀	諏訪東京理科大学 工学部情報応用工学科 教授	健康教育学
〃	杉本 龍勇	法政大学 経済学部 教授	スポーツ経済学
〃	瀬戸 邦弘	鳥取大学 教育支援・国際交流推進機構 准教授	スポーツ文化人類学
〃	高橋 義雄	早稲田大学 スポーツ科学学術院 教授	スポーツ社会学
〃	野口 智博	日本大学 文理学部 教授	トレーニング科学
〃	能瀬 さやか	ハイパフォーマンススポーツセンター、 国立スポーツ科学センター スポーツ医学研究部門ス ポーツクリニック 婦人科	婦人科医
〃	増田 和実	金沢大学 人間社会研究域人間科学系 教授	運動生理学
〃	丸山 弘道	学校法人千葉明德学園 千葉明德中学校、 高等学校 特任講師	テニス指導者
〃	村上 晴香	立命館大学 スポーツ健康科学部 教授	応用健康科学
〃	村田 互	専修大学 校友・育友事務局	元ラグビー選手
〃	吉岡 伸輔	東京大学大学院 総合文化研究科 准教授	バイオメカニクス

〈スポーツ教材提供 抽選者〉

2024年 5月 8日時点

役職	氏名	現職
評議員	岩田 史昭	(公財)日本スポーツ協会 常務理事兼事務局長

〈調査研究プロジェクトメンバー（5名）〉

2025年 3月31日時点

プロジェクト	役職	氏名	現職
障害者 スポーツ	リーダー	藤田 紀昭	日本福祉大学大学院 スポーツ科学研究科 教授
	メンバー	齊藤 まゆみ	筑波大学 体育系 教授
	〃	河西 正博	同志社大学 スポーツ健康科学部 助教
	〃	小淵 和也	(公財)笹川スポーツ財団スポーツ政策研究所政策ディレクター
	アドバイザー	河合 純一	(公財)日本パラスポーツ協会 日本パラリンピック委員会委員長

〈第36回全国児童自然体験絵画コンテスト審査員（17名）〉

2024年10月31日時点

役職	所属	氏名	現職
審査員長		国広 富之	俳優・画家
審査員	専門家 (画家)	小川 尊一	(一社)創元会 理事長、(公社)日展 会員
		杉山 悦照	(一社)創元会 元会員、浜松美術協会 会員
		坂本 眞知子	(一社)創元会 会員
	後援 省庁	葛城 昌弘	文部科学省 総合教育政策局地域学習推進課 青少年教育室室長補佐
		安田 武史	国土交通省 港湾局海洋・環境課 専門官
		岩山 政史	環境省 水・大気環境局環境管理課 課長補佐
		劔崎 聖生	農林水産省 水産庁漁港漁場整備部計画・海業政策課 課長補佐
	後援 団体 企業	金子 純蔵	(一社)日本マリン事業協会 専務理事
		上岡 あい	(公社)日本ユネスコ協会連盟 部長代行
		山下 雅人	(一社)日本マリーナ・ビーチ協会 常任理事
		井上 拓也	(特非)ジャパングームフィッシュ協会 事務局
		古川 和	(独法)国立青少年教育振興機構 理事長
		江口 満	(一財)日本海洋レジャー安全・振興協会 理事長
		近藤 重大	ヤマハ発動機(株)人事総務本部渉外部 部長
	財団 役員	千足 耕一	東京海洋大学 学術研究院 教授、当財団 理事
		渡部 克明	(公財)ヤマハ発動機スポーツ振興財団 理事長

〈ジュニアヨットスクール葉山指導員（10名）〉

2025年 3月31日時点

	クラス	役職	氏名	備考
1	全クラス	校長	板倉 弘尚	ヤマハ発動機スポーツ振興財団
2		コーチ	鎌田 祥一	日本スポーツ協会公認スポーツリーダー
3			山崎 康弘	日本スポーツ協会公認指導員
4			青木 亮平	
5			竹腰 真紀子	栄養士
6	ベーシック マスター	主任コーチ	湯原 浩一	日本スポーツ協会公認スポーツリーダー、救急救助員
7		コーチ	石上 潔	
8			鈴木 大翔	
9			高橋 茂美	
10			山口 嘉代子	

【事業関連情報】

1. スポーツチャレンジ助成対象者

〈2024年度(第18期) 体験助成 (15名)〉

区分	氏名	種目	チャレンジテーマ
ジュニア	おおしま あかり 大島 朱莉	ウインドサーフィンは(IQFOIL) /選手	ユースワールド、ジュニアワールドで表彰台を目指す
	くろやま じん 黒山 陣	モータースポーツ (トライアル) /選手	世界チャンピオンになる
	こばやし さとや 小林 賢弥	レスリング/選手	U17 世界選手権で優勝、ロス五輪出場を目指す
ベシック	かとう あかね 加藤 茜	陸上競技 (パラ) /選手	100m から 400m への種目変更とパラリンピック 出場権獲得、競技を通じ魅力を伝える
	でぐち みほ 出口 美帆	セーリング/選手	日本代表として世界選手権で活躍し、競技の魅力を伝える
	ながせ りの 長瀬 凛乃	フェンシング (フルーレ) /選手	2028 年ロス五輪を目指し、ジュニアおよびシニア での世界大会上位入賞
	のぐち りゅう 野口 颯	ウインドサーフィンは(ウェイブ) /選手	U-20 世界チャンピオン、プロメンズクラスで常時 top32 入りをを目指す
	はつとり はるか 服部 春花	セーリング/選手	ユースワールド入賞、ユースセーラーの新たな可能性の扉を開く
	ふじむら いっけい 藤村 一慶	フリースタイルスキー (モーグル) /選手	2026 年ミラノ五輪出場、2030 年冬季五輪でメダルを獲得する
	ほんま みづき 本間 美月	フェンシング (エペ) /選手	2028 年ロス五輪で女子エペ金メダルを獲得する
	やまだ のどか 山田 和花	空手/選手	世界ランキング TOP10 に入り、2025 年の世界選手権で優勝を目指す
	ゆみなが たかゆき 弓長 昇主	フェンシング (エペ) /選手	世界ジュニア選手権金メダル獲得、世界シニアランキング TOP16 を目指す
	よしだ はな 吉田 陽菜	フィギュアスケート/選手	2026 年ミラノ五輪出場
アドバンスド	いとう まりん 伊藤 真凛	フリースタイルスキー (モーグル) /選手	2026 年ミラノ五輪でメダル獲得
	ささき かずも 佐々木 颯杜	アイスホッケー/選手	NCAA から北米プロリーグに挑戦。日本代表としてオリンピックでプレーする

〈2024年度(第18期) 研究助成 (15名)〉

区分	氏名	分野	チャレンジテーマ
奨励	いぬばしり なぎさ 大走 渚	自然科学	行動科学と計算神経科学の融合的視点から手足の協調運動の制御メカニズムを解明する
	しみず じゅんや 清水 純也		「運動効果の個体差が生じるメカニズム」を明らかにする骨格筋エピジェネティクス研究
	すずき ともひろ 鈴木 智大		3次元スポーツ動作自動分析のための画像処理技術の研究
	のなか えり 野中 愛里		大きな力発揮を必要とする投擲競技においてより少ない力で投擲物を加速させるための力の加え方と身体の動かし方を探る
	ふじもり としひで 藤森 俊秀		最大疾走時の筋腱相互作用に迫る
	あいば えりこ 相羽 枝莉子	人文社会	感情表出を抑えることは有効か？ ー感情表出抑制による心理・パフォーマンスへの影響ー
基本	あとう さとる 阿藤 聡	自然科学	毛細血管支配は運動抵抗性を克服するための標的となるか？
	せ とがわ すすむ 瀬戸川 将		スキル習熟を駆動する脳内機構の解明
	たけむら あい 竹村 藍		脱トレーニング時の軽度な高気圧高酸素環境への滞在はトレーニング効果を持続させるか
	はかりや なだか 秤谷 名鷹		中枢神経系再編の機序解明：パラアスリートに着目して
	はぎお しょうた 萩生 翔大		最適制御に基づく上肢運動と立位姿勢制御の統合的理解 -全身動作の制御機序の解明を目指して-
	はやし ゆうき 林 勇樹		可搬型パン・チルト機構の自動制御による汎用型競技会映像収録システムの開発
	ひろの てつや 廣野 哲也		運動単位活動に着目した関節角度の違いによる筋力トレーニング効果の検証
	まえみち としひろ 前道 俊宏		踵部痛の病態解明に向けた組織及び超音波画像研究
	あ べ まさる 阿部 衛	人文社会	ローマ帝政前期における競技文化に関する研究

〈2025年度(第19期) 体験助成 (15名)〉

区分	氏名	種目	チャレンジテーマ
ジュニア	ふる あ 陸 古澤 陸	レスリング/選手	2025 年 U15 アジア選手権・U17 世界選手権で優勝し、ブリスベン五輪出場を目指す
	やす い えいじゅん 安井 栄純	体操競技/選手	2028 年ロサンゼルス五輪で団体・個人金メダル獲得
ベシック	いわもと れいな 岩本 鈴菜	フェンシング（フルーレ）/選手	2028 年ロサンゼルス五輪でメダル獲得
	おおしま たくと 大島 拓人	トライアスロン/選手	2032 年ブリスベン五輪で、日本人初のメダル獲得
	おおはら けいしん 大原 慶心	テコンドー/選手	アジアジュニア選手権・国際大会でメダル獲得
	おのざわ し ま 小野澤 志真	ラグビー/選手	ラグビー日本代表選手として 2031 年 W 杯に出場し、世界の舞台で活躍する
	かくたに たい き 角谷 太樹	体操競技/選手	2028 年ロサンゼルス五輪で金メダル獲得
	くろやま じん 黒山 陣	モータースポーツ（トライアル）/選手	トライアル世界チャンピオンになる
	こにし はると 小西 陽人	ウインドサーフィン/選手	2025 年 BOYS 部門（U18）で世界ランキング 3 位以内、国際大会上位入賞を目指す
	ぢ げ あや ね 地下 綾音	スノーボードアルペン/選手	全日本選手権優勝、ワールドカップ出場
	ち ば あつき 千葉 忠輝	フェンシング（フルーレ）/選手	2028 年のロス五輪を目指し、国際大会上位入賞
	ツェンガーマーク	サッカー/選手	2025 年 U17 サッカーワールドカップ出場
	まつむら よう た 松村 陽太	アイスホッケー/選手	NCAA から NHL の選手となり、世界の舞台で活躍する
アドバンスト	ながす もも か 長洲 百香	カヌースラローム/選手	U23 世界選手権のスラローム決勝出場、カヤッククロス入賞
	なぐさ あきら 名草 慧	ハンググライダー/選手	アジア人初のハンググライダー世界チャンピオンを目指して

〈2025年度(第19期) 研究助成 (15名)〉

区分	氏名	分野	チャレンジテーマ
奨励	いつだ ひかり 厳田 光里	自然科学	収縮時の股関節深部筋に着目した筋機能と関節安定性の関連解明
	いなば たける 稲葉 健		高強度運動と中強度運動の併用による骨格筋の糖・乳酸代謝適応の解明
	さいとう りく 斉藤 陸		完全損傷前十字靱帯を自己治癒に導く保存的治療確立と靱帯自己治癒メカニズムの解明
	まつむら てつぺい 松村 哲平		トレーニング応用に向けたカフェインと運動誘発性筋損傷の関係の解明
	とみす はやと 戸簾 隼人	人文社会	社会学・心理学的な視点による、地域政策主導のサイクルツーリズムの継続性の検証
	にった りかこ 新田 理花子		近世薩摩の武士のスポーツ文化における「男色」の役割と変遷を明らかにする
基本	いちかわ じゅん 市川 淳	自然科学	局面を変える選手交代:パフォーマンスを高める連携の情報処理モデルの解明と実践
	かわま らき 川間 羅聖		筋力トレーニングによって筋肥大の個人差が生じる要因の解明 -骨格筋の有するユニークな筋線維走行に着目して-
	しみず じゅんや 清水 純也		胎盤・骨格筋連関から探る「運動適応性の個体差」の起源
	はやし かずひろ 林 和寛		なぜ運動トレーニング後の筋痛を強く感じる者がいるか
	みつはし りさ 三ツ橋 利彩		女性アスリートに特化した熱中症対策の構築
	むらもと ゆうき 村本 勇貴		呼気ガスからの揮発性酸化脂質を用いた水素ガスによる疲労軽減効果の解明
	もりなが こうすけ 森永 浩介		ジュニアパラアスリートのための革新的な低コストのクラウドチングスタート用前腕義手: 3D プリンティング技術による経済的障壁の軽減
	ひらつか たくや 平塚 卓也	人文社会	運動部活動改革における政策学習に関する研究
	よしざわ なお 吉沢 直		気候モデルを用いた将来における日本全国のスキー場の生存可能性評価

2. 第33回セーリング・チャレンジカップIN 浜名湖 参加団体及び上位入賞者

〈参加団体:14団体 参加艇数:52艇 参加人数:52名〉

都道府県	クラブ名	隻数	人数
神奈川県	江の島ヨットクラブジュニア	9	9
香川県	B&G 高松海洋クラブ	8	8
神奈川県	神奈川県ユースヨットクラブ	6	6
山梨県	山中湖村立山中湖中学校ヨット部	6	6
神奈川県	YMFS ジュニアヨットスクール葉山	5	5
三重県	三重県立津工業高等学校ヨット部	4	4
三重県	三重県セーリング連盟ジュニアユースヨットクラブ	3	3
長野県	諏訪湖ジュニアヨットクラブ	2	2
岡山県	瀬戸内ジュニアセーリングクラブ	2	2
広島県	広島セーリングスクール	2	2
北海道	北海道セーリング連盟	2	2
愛知県	海陽海洋クラブ	1	1
静岡県	静岡県セーリング連盟	1	1
兵庫県	B&G 兵庫ジュニア海洋クラブ	1	1

〈各クラス入賞者〉

OP初級 (参加15艇)		
	氏名	所属
総合1位	いわなみ ゆ な 岩波 由夏	江の島ヨットクラブジュニア
総合2位	まつうら えいと 松浦 瑛士	三重県セーリング連盟ジュニアユースヨットクラブ
総合3位	たかはし たける 高橋 武尊	海陽海洋クラブ

OP上級 (参加10艇)		
	氏名	所属
総合1位	とだ なお 登田 直	広島セーリングスクール
総合2位	なかた ことみ 中田 琴海	江の島ヨットクラブジュニア
総合3位	たんば しょうえい 丹波 翔毅	江の島ヨットクラブジュニア

ILCA4 4.7級（参加16艇）		
	氏名	所属
総合1位	いわなみ 岩波 しょうご 将吾	江の島ヨットクラブジュニア
総合2位	あきた 秋田 かいと 海斗	江の島ヨットクラブジュニア
総合3位	いいじま 飯島 くるみ 来海	神奈川県ユースヨットクラブ

ILCA6 ラジアル級（参加11艇）		
	氏名	所属
総合1位	たなか 田仲 りゅうすけ 竜翼	三重県立津工業高等学校ヨット部
総合2位	まつした 松下 りょうや 諒也	B&G高松海洋クラブ
総合3位	はやし 林 ようた 瑤大	三重県立津工業高等学校ヨット部

3. 第36回全国児童自然体験絵画コンテスト入賞者

〈最優秀賞(4点)〉

氏名	作品名	所在地
文部科学大臣賞		
酒巻 玲那	のぼれたよ	東京都
作品の説明:北区中央公園でロープをつたって自分よりずっと高い木に初めて登りました。自信がついたのか、3m位のところからターザンロープを使っておりました。		
国土交通大臣賞		
熊崎 李風	海へ遊びに行ったら・・・	長崎県
作品の説明:家族のみんなと海へ遊びに行ったら、目の前に大きな船を見つけ驚いたよ！！		
環境大臣賞		
青松 榮	里山でみつけたオオミズアオ	東京都
作品の説明:京都の里山や兵庫の森へフィールドワークに行きました。その先々で様々な生き物に出会い、感動した思い出をつめ込んで描きました。		
農林水産大臣賞		
佐々木 優成	おなかのすいた黒マグロ	福岡県
作品の説明:父のふるさとの対馬で漁船に乗って、マグロの養しよく場へ行って、ごはんをあげました。力強いマグロの絵をかきました。		

〈特別賞(11点)〉

氏名	作品名	所在地
審査員長賞		
黒岩 結善	おんぶしているバツタ	長崎県
日本マリン事業協会会長賞		
早副 智陽	おともだちと海であそんだよ	広島県
日本ユネスコ協会連盟賞		
近藤 光	あさひだけのさんさく	埼玉県
日本マリーナ・ビーチ協会会長賞		
郡司 ひかる	たらい舟	福島県
ジャパンゲームフィッシュ協会会長賞		
寶来 琉唯	つれたよ！ニジマス	鹿児島県
国立青少年教育振興機構理事長賞		
稲葉 心花	いっただっきまーす	和歌山県
日本海洋レジャー安全・振興協会会長賞		
香取 祐理	波しぶきと笑顔の大冒険	茨城県
ヤマハ発動機賞		
関山 ひまり	初めて乗れた！	神奈川県

YMFS特別賞(小川 尊一画伯選)		
谷江 穂乃香 たにえ ほのか	カマキリとせみのたいけつ	新潟県
YMFS特別賞(千足 耕一理事選)		
小俣 夏月 おまた なつき	海の中で	東京都
YMFS特別賞(渡部 克明理事長選)		
原 颯太 はら そうた	家族と海へ	大阪府

〈優秀賞(9点)〉

部 門	部門	氏名	作品名	所在地
金 賞	幼児	中村 春斗 なかむら はると	ぼくもヤドカリになるぞ！	広島県
	小学校低学年	小野塚 響 おのづか ひびき	なんじゃこりゃ！この生き物	新潟県
	小学校高学年	中島 映 なかじま はゆる	生きもののいっぱい！御殿場浜	大阪府
銀 賞	幼児	槇野 晃太郎 まきの こうたろう	SUPにのったよ	岡山県
	小学校低学年	石田 楓花 いしだ ふうか	シオマネキたちのダンスステージ	神奈川県
	小学校高学年	伊勢 巧都 い せ たくと	「魚つかまえたよ！」	徳島県
銅 賞	幼児	藤原 雫 ふじわら しずく	いろんな花火、きれいだな	山口県
	小学校低学年	神足 尚音 こうたり なおと	大きなおいもがとれたよ！	兵庫県
	小学校高学年	菊池 瑛翔 きくち えいと	シイラと決闘	宮城県

4. スポーツ教材提供先

〈ボッチャボールセット（ボール13個・審判具・収納バッグ/団体） 60団体〉

都道府県	団体名	都道府県	団体名
北海道	ニセコ町スポーツ推進委員協議会	新潟県	社会福祉法人富士美会 すぎの子クラブ
北海道	由仁町スポーツ少年団本部	福井県	福井県立ろう学校
北海道	標津町立標津小学校	福井県	福井県立清水特別支援学校
北海道	清水町立清水小学校	静岡県	浜松市立浜名小学校
北海道	安平町立早来学園	愛知県	名古屋石田学園 星城中学校
北海道	釧路市立青葉小学校	愛知県	田原市立泉小学校
北海道	北斗市立萩野小学校	三重県	桑名市立長島北部小学校
北海道	上富良野町立東中小学校	滋賀県	彦根市立城西小学校
北海道	帯広市立西小学校	京都府	京都府立中丹支援学校
北海道	上砂川町立中央小学校	大阪府	大阪府立交野支援学校
北海道	千歳市立千歳第二小学校	大阪府	摂津市立鳥飼北小学校
青森県	八戸市立豊崎中学校	兵庫県	神戸市立灘さくら支援学校
岩手県	大船渡市立末崎小学校	兵庫県	姫路市立谷外小学校
宮城県	加美町立賀美石小学校	奈良県	天川村立天川小中学校
山形県	酒田市立松山小学校	奈良県	葛城市立當麻小学校
福島県	福島県立聴覚支援学校福島校	奈良県	天理市立井戸堂小学校
福島県	鏡石町立第二小学校	和歌山県	和歌山市立高松小学校
茨城県	日立市立仲町小学校	鳥取県	鳥取県立皆生養護学校
茨城県	日立市立山部小学校	広島県	廿日市市立平良小学校
茨城県	笠間市ラグビーフットボール協会	広島県	廿日市市立四季が丘中学校
栃木県	栃木県立南那須特別支援学校	山口県	一般社団法人絆スポーツクラブ萩
群馬県	渋川市立渋川西小学校	長崎県	長崎県立島原特別支援学校 南串山分教室
群馬県	渋川市立子持中学校	長崎県	川棚町立川棚中学校
千葉県	旭市立嚶鳴小学校	長崎県	諫早市立諫早中学校
千葉県	袖ヶ浦市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会	長崎県	諫早市立みはる台小学校
東京都	豊島区立千早小学校	長崎県	長崎市立小ヶ倉小学校
神奈川県	神奈川県立湘南支援学校	鹿児島県	鹿児島市立桜州小学校
神奈川県	神奈川県立平塚ろう学校小学部	沖縄県	沖縄県立大平特別支援学校
神奈川県	小田原市立山王小学校	沖縄県	栗国村立栗国小学校
新潟県	新潟市立内野小学校	沖縄県	宮古島市立南小学校

〈タグラグビーセット（タグボール3個・タグベルト15組/団体） 60団体〉

都道府県	団体名
北海道	千歳市立千歳小学校
北海道	豊似リトルサンダース
北海道	るすつ保育所
北海道	帯広市立柏小学校
青森県	デポルターレ八戸
岩手県	滝沢市立滝沢第二小学校
宮城県	亘理町立荒浜小学校
宮城県	大崎市立古川西小中学校
宮城県	大崎市立三本木小学校
福島県	認定こども園 なこそ幼稚園
群馬県	つくしんぼ保育園
群馬県	箕郷レクススポーツ少年団
群馬県	学校法人東桜学園認定こども園スマイル幼稚園
群馬県	幼保連携型認定こども園 高崎保育所
群馬県	社会福祉法人上毛愛隣社 岩神保育園
埼玉県	新座市立第四小学校
埼玉県	白岡天使幼稚園
埼玉県	学校法人前島学園 上尾寿第二幼稚園
埼玉県	学校法人鈴木学園 浅間台幼稚園
埼玉県	学校法人藤田学園 杉戸白百合幼稚園
千葉県	千葉県立千葉盲学校
千葉県	市原市立光風台小学校
千葉県	香取市立香取小学校
千葉県	香取市立水の郷小学校
千葉県	市川市立曾谷小学校
千葉県	認定 NPO 法人スポーツアカデミー
神奈川県	茅ヶ崎市立西浜小学校
神奈川県	藤沢市立高砂小学校
新潟県	認定こども園キッズ陽だまり園
新潟県	社会福祉法人わかば福祉会 あおばこども園

都道府県	団体名
富山県	アクティブ Kurobe スポーツ少年団
長野県	松本市立大野川小学校
長野県	学校法人インターナショナルスクールオブ長野小学部
静岡県	龍の子幼稚園
静岡県	丸子幼稚園
静岡県	静岡市立大里東小学校
静岡県	静岡市立清水庵原小学校
静岡県	さなる幼稚園
愛知県	瀬戸 SOLAN 小学校
愛知県	松元幼稚園
滋賀県	彦根市立高宮小学校
奈良県	奈良市立都祁小学校
和歌山県	社会福祉法人和歌山みちる会
和歌山県	岩出市立山崎保育所
和歌山県	岩出市立岩出保育所
鳥取県	米子市立啓成小学校
山口県	岩国市立御庄小学校
山口県	山口市立小郡小学校
徳島県	四国女子ウルフクイーンズ
徳島県	美馬ジュニアラグビーアカデミー
徳島県	徳島県立板野支援学校
徳島県	徳島県立板野東小学校
福岡県	大木町立木佐木小学校
佐賀県	北茂安ジュニアラグビークラブ
長崎県	長崎精道小学校
熊本県	熊本市立託麻原小学校
大分県	大分市立豊府小学校タグラグビーフットボールクラブ
鹿児島県	鹿屋市立鹿屋小学校
鹿児島県	鹿児島市立坂元小学校
鹿児島県	始良市立柁城小学校